

年 組 名前

2022年6月14日付福井版

## 県内ごみ排出 4年ぶり減

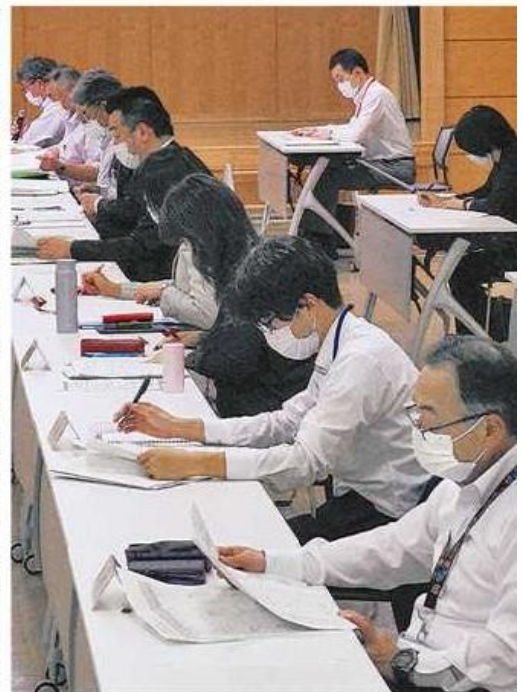
### 1人1日当たり 20年度、コロナ影響

県民一人一日当たりのごみ(一般廃棄物)排出量が、二〇二〇年度は九百一と前年度比十一減で、四年ぶりに減少したことが分かった。新型コロナウイルス感染症拡大で帰省に伴う食糧機会が減ったことなどが要因とみられる。

県や市町などでつくる県ごみ減量化推進会議が二日、福井市大手二の県教育センターであり、事務局の県が報告した。全国平均の八百六十五は上回り、四十七都道府県で二十五位だった。総排出量は二十五万五千二百七十八トで、前年度に比べて五千四百四十四ト減った。



市町別では高浜、あわら、美浜など十市町が減少した一方、池田、おおい、勝山といった七市町が増えた。あわら市の減少は、新型コロナウイルスで温泉旅館の利用客が減ったことが理由という。池田町はトンネルやダムなど大型公共事業により、住み込みの労働者が人口の一角に当たる二百人ほど増え、排出量が膨らんだ。



ごみ減量化について検討する参加者ら＝福井市の県教育センターで

県は二五年度の目標値を八百五十八と設定している。会合では、二二年度に取り組む施策の方向性として、食品ロス削減の推進と紙資源リサイクルの強化、プラスチックごみ対策の強化の三点を確認した。

資源ごみを巡っては、四月にプラスチック資源循環促進法が施行され、容器包装以外のプラスチック製品の分別回収を市町の努力義務とした。これを受け推進会議の部会では全市町を構成員とし、共通して取り組む施策を年度内にまとめる方針も確認した。

議長の子谷修作・東洋大名誉教授は「継続的な取り組みが成果につながる。法律の施行で製品プラスチックのリサイクルが期待される。市町で検討してほしい」と話した。

会合には委員二十人が出席した。二〇年度のリサイクル率は18・2%と前年度に比べ0・2ポイント上昇し、全国順位は二十三位だった。(山本洋児)

問1 見出しに「県内ごみ排出 4年ぶり減」とありますが、具体的に前年度から何<sup>グラム</sup>減ったのでしょうか。  <sup>グラム</sup>

問2 次のア～ウの中で、左上のグラフから読み取れるものはどれでしょうか。

ア 2020年度の福井県民1人1日当たりのごみ排出量は、901<sup>グラム</sup>だった。

イ 2020年度の福井県民1人1日当たりのごみ排出量は、47都道府県で25位だった。

ウ 福井県民1人1日当たりのごみ排出量は、2008年から常に全国平均を上回っている。

問3 福井県は2022年度にはどんなことに取り組もうと考えているでしょうか。本文から3つ抜き出しましょう。